



# 伊豆沼・内沼に10万羽を超える 渡り鳥が飛来！！

## ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー

11月8日と22日、伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー」を開催しました。このツアーでは、伊豆沼でガンの飛び立ちを観察したあと、マイクロバスで伊豆沼・内沼と同じラムサール条約湿地である蕪栗沼と化女沼を見学しました。遠くは、東京や愛知からの参加者もいて、マガンの大群が頭上を飛んで行く壮観な光景に感動していました。また、蕪栗沼ではオオヒシクイを、化女沼ではいろいろな種類のカモ類を観察しました。同じラムサール条約湿地でも3ヶ所でそれぞれ環境が異なります。宮城県北部の自然の豊かさを体感するツアーとなりました。



水田に飛んで行くマガンの群れを見上げる参加者の皆さん



温かい朝食で、冷えた体が暖まります



蕪栗沼に到着。バードウォッチングを楽しみました



蕪栗沼ではたくさんのオオヒシクイを見ることができました



化女沼では、展示コーナーで鳥のお勉強！



図鑑をみながら観察する参加者



伊豆沼をバックに記念撮影！

## ゼニタナゴ、本格的に復活か？

写真は11月に定置網で獲れたゼニタナゴ。最近、定置網で何匹も捕獲されるようになってきました。かつては毎年3～4トンが漁獲されていたゼニタナゴですが、90年代半ば、オオクチバスの食害によって姿を消しました。7月の調査で、19年ぶりに沼で再確認されたあと、その数は増加しつつあります。ゼニタナゴは、世界でも数か所にしか生息していない絶滅危惧種。そんな絶滅危惧種が、一度消えた沼で復活しつつあるという事例は、日本の淡水魚では初めてです。まさに漁協やバス・バスターズをはじめ、皆さんと協力して進めてきた自然再生活動の成果です。しかし、絶滅危惧種はあくまでシンボル。絶滅危惧種が復活する沼なら、沼エビなど食用になる生きものも増えるはずと期待しています。形になってきた保全活動の成果。いろいろな生きものにあふれる沼の姿を夢見て、今後も活動を続けていきたいと思えます。



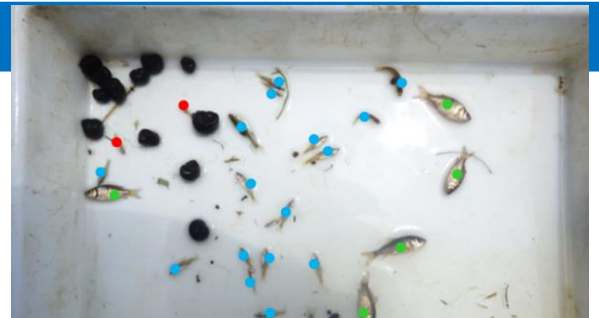
定置網で捕れたゼニタナゴ。なんと9匹も確認されました。

ゼニタナゴが泳ぐ姿を伊豆沼・内沼で見られるかも？



## 二工区で魚類調査を行ないました

二工区は伊豆沼に接する水田地帯で、今後大規模に整備される予定です。整備前の二工区の環境や生物を知るために今年も調査を行ないました。その結果、田んぼの間を流れる小さな水路で、6月から8月にかけて、メダカやモツゴ、ナマズといった魚の稚魚がたくさん見られました。そして、田んぼから水が落ちると小さな水路で育った魚たちは大きな水路に下るといった生活をしていると考えられました。魚たちを守るためには、こうした暮らし方ができる環境を整備後も残す必要があります。



定置網で捕れた魚たち。●・・・コイ・フナ、●・・・モツゴ、●・・・メダカ、●・・・ドジョウ

## 海外からの視察

11月は渡り鳥の観察が一番いい季節です。海外からも多くの視察者が訪れ、11月17日には韓国テグ地方環境庁訪問団14名が、11月20日にはアセアン加盟国中学生交流事業でタイ、マレーシアの中学生14名が来館しました。



館内の見学や野鳥を観察するタイ、マレーシアの中学生

## 伊豆沼2工区の勉強会が開催されました

2工区のほ場整備事業に伴う環境に関する勉強会が、宮城県東部地方振興事務所の主催で、11月21日に当サテライトセンターで開催されました。地元の方々を中心に、約50名の参加者があり、多方面での意見交換がされました。財団からは、NPO法人あぐりねっと21の委託を受けて実施した、鳥類と魚類の調査結果を報告しました。県からは、実施計画と今後のスケジュールなどの説明がありました。



二工区のほ場整備事業についてさまざまな意見交換がされました

## 伊豆沼・内沼に13万羽のマガンが飛来

	2015/11/20	2014/11/21
ガン類	130,949	104,972
ハクチョウ類	1,833	3,086
カモ類	4,707	453
計	137,489	108,511

〈事務局〉  
 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団  
 〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷17-2  
 Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217  
 E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp  
 ホームページ: <http://izunuma.org/>